

平成27年度
第6回

教育推進プラン・江東
後期計画策定委員会会議録

平成28年1月28日(木)

江東区教育委員会

- 1 開会年月日 平成28年1月28日（木）午前10時00分
- 2 閉会年月日 平成28年1月28日（木）午前11時29分
- 3 開会場所 文化センター5階 第7・第8会議室
- 4 出席委員 小川哲男（委員長）、小野瀬倫也（副委員長）、杉田次助、小原良子、朝香茂、小田美一、原田純子、赤石定治、織茂貴之、原浩司、彦田愛、藤田賀子、山本昭比古、仲田恵、岩佐哲男（教育長）
- 5 出席職員 石川教育委員会事務局次長、中村庶務課長、太田学校施設課長、青木整備担当課長、梅村学務課長、本多指導室長、小坂学校支援課長、遠藤放課後支援課長、干泥江東図書館長

6 次第

議題

- 1 教育推進プラン・江東（後期）案について
- 2 その他

7 審議概要

小川委員長 皆さん、おはようございます。定刻になりましたので、これより第6回目の教育推進プラン・江東後期計画策定委員会を開会いたします。
初めに、連絡などがあれば、よろしく願いいたします。

中村庶務課長 おはようございます。織茂委員より遅参の連絡をいただいております。よろしく願いいたします。

小川委員長 ありがとうございました。
それでは、本日の資料の確認に入ります。庶務課長、お願いいたします。

中村庶務課長 では本日の資料でございます。事前に送付しているものと机上配付がございます。

事前にお送りいたしました教育推進プラン・江東（後期）案という資料と江東区教育施策大綱という参考をお送りしていると思います。

また、本日は机上に「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針の策定について（概要）というA3のものをお配りしてございま

す。おそろいでしょうか。

小川委員長 ありがとうございます。

それでは、これから議題に入っていくわけですけれども、流れといたしましては、教育推進プラン・江東（後期）の案の御説明をいただきながら、御意見を承る。そして、最後のほうに委員の皆さんから一言とはいわず三言ぐらいの感想をいただく予定でございますので、そのようなお気持ちでお受け取りいただければ幸いです。

なお、順番も考えていまして、織茂委員側から回っていきますので、終わったら杉田委員のほうから回っていきますので、お受けとめください。

きょうは最後の会議ですけれども、うれしいというか、悲しくもありますが、心を引き締めて行きたいと思っています。おそらく小1時間ぐらいで終了するのではなかろうかと思いますが、この流れで進めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議題に入っていきます。

1番、教育推進プラン・江東（後期）案についてを議題といたします。事務局より御説明をお願いいたします。

中村庶務課長 それでは、私から議題1、教育推進プラン・江東（後期）案について、御説明いたします。

教育推進プラン・江東（後期）の修正案に対しまして、策定委員の皆さんや検討部会の委員から御意見をちょうだいし、これらの意見を反映した案を策定したところでございます。本日は主な修正点を中心に御説明いたします。

では、教育推進プラン・江東（後期）案をごらんいただきたいと思います。

まず、第1章の教育推進プラン・江東（後期）の基本的な考え方、2ページをお開き願いたいと思います。

(2)の国や東京都の動きについてでございます。これにつきましては昨年の11月、東京都におきまして東京都教育施策大綱が策定された旨を追記してございます。

なお、昨年12月21日でございますが、国の中央教育審議会が文部科学大臣宛てに答申を出してございます。新聞報道もされてございますが、大きく三つの答申を出されてございます。学校における地域との連携・協働体制に関するもの、チームとしての学校のあり方などについて、三つの答申が出されたところでございます。

これを受けまして、今後、必要に応じて法案が国会に出される予定でございましたが、今回の通常国会には出ないということも報道されているところでございますので、今回の5年間の計画でございますが、計画

を実施するに当たりまして、そうした新たな動きを参考にしながら対応していくということで、国の動きを今後注視してまいりたいと考えてございます。

次に、3ページをごらんください。(4)2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催でございます。

計画全体にわたりますが、開催についてのコンセプト、文言の整理をいたしまして、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」という名前で、全部を統一した表記にしているところでございます。

続きまして、第2章の〈江東区教育ビジョン〉江東区が目指すこれからの教育でございます。12、13ページをお開き願います。

江東区の教育のあるべき姿、使命及び行動指針の記載順序でございますが、これにつきましては14ページのまとめたものと合わせまして、順番を変更したところでございます。

12ページをごらんいただきますと、1の「江東区の教育のあるべき姿」の終わりにございます、「わたしたち」ということについて説明文を追記いただきました。また、これまでの案では、リード文に「使命を成し遂げた後の姿」とございましたが、教育は常に進行形であるということで、それは削除させていただいてございます。

続きまして、13ページをごらんいただきたいと思います。

江東区の教育の行動指針でございますが、これまでの案では、全ての文末を「育みます」としておりましたが、行動指針としてそぐわないのではないかという御意見をいただきましたので、「推進します」という形に、統一して修正をいたしました。あわせて、前回の案では、行動指針2に「豊かな人間性を育む」とうたってございましたが、広義に解釈すると、行動指針の1の「生きる力」に含まれるということもございまして、誤解を招くことがないように、表現を修正をいたしました。

そして、その下でございます。計画案の中にごございますキャッチコピーでございますが、その意味を説明する項目を設けまして整理をして追加したところでございます。4の「江東区教育理念のキャッチコピー」でございます。

そして、このキャッチコピーでございますが、いろいろな御意見をちょうだいしまして修正をしております。前回の案では、副題として「みんなで育む生きる力と豊かな心」でございましたが、行動指針2にも豊かな心ということで御説明したように、生きる力に含まれるという考えもございまして、新たに整理しまして、「つながる心」としてございます。つながる心とは、使命3の「人権を尊重し他者を思いやる力」、使命5の「他者と協調・協働し人間関係を形成する力」及び行動指針3の「学校・家庭・地域」と連携をあらわしたものであるということで、「つながる心」入れたところでございます。

また、副題にごございました平仮名で「ことうの子」ございましたが、

漢字で「江東の子」ということで、江東区らしい表現で漢字に変更しております。

続きまして、14ページをごらんください。12・13ページを14ページに合わせたというところがございますが、この14ページも文言の修正をしております。12・13と14の各ページは同じ順番で、同じ表現で整理をしたというところがございます。

続きまして、16ページをお開き願います。

4つの施策の柱で、教育理念の関係を示す図でありますが、前回の案では3つの矢が重なった状態で、あるべき姿に向かっておりましたが、幾つかの御意見をちょうだいいたしましたので、使命を実現するための基礎的な条件としての施策の柱Ⅰを、施策の柱Ⅱで支え、さらにⅢとⅣで、連携しながら実効的に推進するイメージに図を修正しているところでございます。

続きまして、第3章の「教育推進プラン・江東（後期）における重要課題」でございます。20ページをお開きください。

昨年10月20日の第2回総合教育会議におきまして了承されました教育施策大綱の案でございますが、これを受けまして大綱案の文言に合わせ、オリンピック・パラリンピックに向けての中に、「江東区の子どもたちが大会にかかわる」という文言を追加したところがございます。

続きまして、21ページをごらんください。②オリンピック・パラリンピック教育により目指すものの内容を、昨年12月に公表されました東京都の「2020年に向けた東京都の取組」の内容に合わせまして、文言の調整、修正をしたところがございます。

一番下に記載のイメージ図でありますが、これにつきましては、中央部分にございます取り組み主体、前回は教育委員会、学校、幼稚園ということでしたが、これでは足りないのではないかとということで、「区民、保護者、地域、学校、江東区の教育に関わるすべての人たち」としたところがございます。また、その周りには、前回「英会話」としてございましたが、少し広くとらえまして「国際理解」という形で表現を改めたところがございます。

なお、このイメージ図でありますが、1月20日に総合教育会議を開催したところがございますが、その中でオリンピック・パラリンピックに向けたイメージ図として、障害者の方たちへの理解を示す、そうしたコンセプトが文言の中に入っていないのではないかと。それをしっかり入れるように検討するよということ御意見をいただきました。どのような形かということ、きょう具体的に出せればよろしかったのですが、なかなか教育だけ追加するということは難しいということもございまして、それにつきましては庁内のオリンピック・パラリンピック担当とも調整しまして、しっかりした文言を追加するということ調整してまいります。

続きまして、22ページをごらんください。

22ページに新たに江東区のオリンピック・パラリンピックの取り組みとして、新たに記載したものが「長期計画の展開2016」素案の内容そのものを追加したところがございます。ごらんになっていただきますと、江東区全体の取り組みとして、いろいろなものがここに記載されてございまして、これについて今後江東区全体で取り組む方向性がこの中に示されてございますので、ここに新たに追加したところがございます。

続きまして、第4章の教育推進プラン・江東（後期）で取り組む重要施策につきまして、26ページをごらんください。

重要施策1の確かな学力の向上でございますが、現状と課題の「こうとう学びスタンダード」の実施、29ページ取組の重点の1、(2)学力向上を図るための施策の充実及び主な取組内容の文言を、より実態に即したものに修正をしたところがございます。特に、26ページでございますが、予定と書いてございますように、こうとう学びスタンダード定着度調査の結果概要の表につきましては、現在集計作業中でございますので、集計が終わり次第、差し替えるということで予定と記載しているところがございます。

続きまして、38ページをごらんいただきたいと存じます。重要施策4、就学前教育の充実でございます。

現状と課題の保幼小中の連携を重視した就学前教育の充実及び39ページの主な取組内容の文言を、より実態に即したわかりやすいものに修正したところがございます。

また、取組の重点のうち、(1)を幼稚園・保育所における教育の充実と改めるとともに、新たに(2)としまして、教員・保育士の研修の充実を追加したところがございます。

また、計画全体でございますが、保育所と保育園という表現が混在してございましたが、正式に保育所ということで統一をして、全体を修正整理したところがございます。

次に、45ページをごらんください。重要施策6、個に応じた教育支援の充実でございます。

現状と課題の特別支援教室の整備でございますが、前回東京都の取り組みを中心とした内容でございましたが、現状を正しく、詳しく説明するとともに、本区の取り組み内容を加筆して追加したところがございます。

続きまして、73ページをお開き願います。現状と課題のIT化の推進による利用環境の向上の中に「IC機器」という表現で従来やってまいりましたが、今回IT機器ということで整理をいたしました。また、74ページにつきましても、同じ形で修正をしたところがございます。

以上、教育推進プラン・江東（後期）案の御説明でございます。

続きまして、参考の江東区教育施策大綱（案）をごらんいただきたいと思ひます。カラーの区長の写真が入ったものでござひます。これは先ほどもお伝えしましたように、1月20日に開催されました第3回総合教育会議におきまして、区長と教育委員会が協議を行い、案が了承されたということござひます。

江東区教育施策大綱でござひますが、資料のように、リーフレットの形式で印刷を予定しているところござひます。

まず、表紙の区長の挨拶文をごらんになっていただきたいと思ひます。

大綱の策定に当たつての思ひを、後段のほうでは、区長と教育委員会が一体となつて教育行政を推進し、「未来を担うこどもを育むまち」の実現に向け、地域の皆様とともにこどもたちの輝ける未来をつくつていきたいという記載をしているところござひます。

おめくりいただきまして、見開きページをごらんいただきたいと思ひます。

左の上に「教育施策の大綱とは」、その横に「江東区教育施策大綱」という形で、教育施策大綱そのものについての根拠、またどういふ考え方でまとめているかということ整理してござひます。

そして、その中に記載しておりますように、江東区の教育の今後5年を展望し、区民、保護者、地域、学校、江東区の教育に関わるすべての人たちが成すべきことを示すものというように、そこで定義をしてござひまして、大綱の構成を4つの施策の柱、13の重要施策、重要課題の3つである旨を説明しているということござひます。

そして、この教育施策大綱でござひますが、下にござひますように、青色で江東区基本構想の目指すべき姿、「未来を担うこどもを育むまち」と記載し、右上に将来像を共有する江東区教育理念をピンク色の枠で示しているところござひます。

そして、その下の水色の部分でござひますが、大綱の具体的な内容は、1つ目の要素として4つの施策の柱をグレーの枠で、それぞれ1から4まで示しております。

そして、大綱の2つ目の要素でござひます重要施策につきましても、それぞれの施策の柱に①から⑬ということ、ぶら下げる形で説明をしているところござひます。

3つ目の要素、重要課題でござひますが、一番下に記載したとおり、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の取り組みということで、見開きページに整理をしてござひます。重要課題につきましても、最後のページ、裏表紙をごらんいただきたいと思ひます。

教育推進プラン・江東（後期）と同じように、重要課題としてここで定めたところござひまして、ここに記載してござひますように、江東区はオリンピック・パラリンピック教育を推進し、江東区のこどもたちが大会にかかわることを通して、こどもたちの夢や将来への可能性を広

げることを目指しますとしているところでございます。そして、先ほどお話ししました江東区民、江東区にかかわる全ての人の力によって、子どもたちが夢を抱き、外国から来た人たちへのおもてなしを上手に行うなど、大会の成功、子どもたちの成長につながるイメージを、日本を代表する花でございますサクラの木をモチーフにイメージをつくったところでございます。

なお、先ほどお話しいたしましたように、この周りにありますコンセプト、言葉の中に、パラリンピックで障害者の理解など、どのような言葉で示すか、表現していくかということも、今後調整していくということでございます。

ページの終わりでございますが、一番下のところに「ロゴマーク」と書いてございまして、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けまして、江東区はブランドコンセプトというものを定めてございます。区報にも掲載しましたように、「SPORTS&SUPPORTS KOTO City in TOKYO スポーツと人情が熱いまち江東区」ということで、現在ロゴマークを募集し、今、選考している最中でございます。このロゴマークが決定次第、ロゴマークを入れた形で、この大綱のリーフレットを作成する予定になってございます。

ちなみにロゴマークでございますが、3月21日号の区報で公表するところでございます。

そして、参考ではございますが、k o マークとロゴマークがどうなるかということでございますが、まだ方針ではございますが、オリンピック・パラリンピックに向けては、k o マークを使わずにロゴマークを使っていくほうがいいのではないかとということで、庁内ではこの方向で検討をしているところでございます。

説明は以上です。

小川委員長

ありがとうございました。

丁寧な御説明をいただきまして、よくわかってきたのではなかろうかと思えます。

では、全般的に御意見、御指摘をいただければなと思うんですが、私は13ページをお開きいただけないでしょうか。

13ページの右下のイメージ図、キャッチコピーのところ、丸い楕円のところです。「つながる心」という言葉は素敵ですね。というのは、江東区は長い歴史がありますから、歴史と文化・伝統を受け継ぎながら、未来に向かって動いているわけですので、歴史というか、縦のつながりもあるし、あるいは地域の横のつながりもあるということで、縦の横のつながりを意識して、そういう意味では、これからの新しい社会づくりとか、あるいは新しい教育づくりの理念がこの言葉にあらわれているのだらうなと思って、よくお考えいただいたなと思って、素敵だなと

思っているところであります。

16ページの矢印の図もよくお考えになりましたね。

いかがでしょうか。幼稚園、保育所のかかわることを、随分深く書き込んでいただいたし、我々の意見がそのまま生かされているのだろうなと思っています。

仲 田 委 員 小川先生がおっしゃってくださったように、就学前教育のところで、幼稚園と保育所ということで、本当に就学前を全て含めて表現して下さって、本当に私たちも幼稚園だけではなくて、保育所と今は連携をとっていますけれども、さらにこれから保幼小中ということで進めていかなければいけないなということを、改めてこの表記で感じさせていただきました。

大綱の裏側の図で、幼稚園は学校教育の第一歩であるということで、教育基本法とかで全て位置付けられているのですが、周りに黄色い、地域、区民、保護者、学校と書いてあるところが、幼稚園としては学校に含まれるので、全然それは違和感はないのですけれども、保育所というのは学校としての位置付けではないのではないかと。その辺はどういうふうに表現するのか、というのが私の感じたところです。

でも、私自身、就学前教育の充実というところでは、意見を言わせていただいたところを入れていただいて、本当にそういう意味では充実した中身だなというふうには思いました。

小 川 委 員 長 ありがとうございます。何か御回答というか、お願いします。

中 村 庶 務 課 長 貴重な御意見ありがとうございます。

就学前教育で保育所を入れて、教育施策を重要施策の中の実現の中では入れてございます。オリンピック・パラリンピックの取り組みは、ちょうど追加いたしました江東区の長期計画の展開の中で、つまり全庁的に取り組むべきことであるということは、保育所も当然理解をしてございます。これは教育施策大綱でございますので、そうした上で関連部署にも当然配布して、理解をしていただくということは予定しておりますが、全庁的には間違いなく保育所もこれに向かって、しっかり子どもたちと一緒にあって、教育と連携しながら取り組んでいくということは変わっていないと思っていますので、その辺はしっかり私どもも連携を取りながらまいりたいと思います。

小 川 委 員 長 ありがとうございます。確かに、読み取り方の問題ですからね。でももし必要なことがあれば、また御検討をください。

ほかにもございますでしょうか。

赤石委員 赤石です。よろしくお願いします。2つお話しをします。

1つは、修正案に比べまして、文字が少し大きくなったのではないかというふうに思いました。それから、余白が前後少し工夫しながら、行間もゆとりを持って、全般的にすごく読みやすい形になったというふうに思いました。

それから、あと文言が具体的な事例にシフトしていると思いました。

江東区の特徴ある事例ということ saying いたもののほかに、65ページの生活習慣のところ、文部科学省が実施したとおりですと、平均と比較のものを入れたいということで、規範意識が大事だというのが、より具体的にわかるように組み込まれていると思いました。

あと、「はじめに」のところ、下から5行目のところです。修正案では、「本ビジョンは」というところで、「子どもたちが責任感と未来を担う力を持つ人間に成長していくことを目指し、この変化の激しい社会に移行していく中で」、前は「21世紀型教育の視点も取り組んで」と書いてあったと思うんですけども、これが今国が学習指導要領を改定する中で言われている「これからの時代に求められる資質・能力」という文言に変わっていたので、今の都や国の施策に添う形で改定を準備されているのだなというふうに、読んでいて思いました。非常に、御苦勞をなされてつくられているだろうと思いました。

小川委員長 ありがとうございます。確かに、字間とかの文字も読みやすくなっています。くっきりしてきたという言い方なんですか。

ほかにもございますでしょうか。

26ページの調査結果の差し替えといったことが予定になっているわけですが、何か速報値とか、そういった感触としてはよくなっているなど、もし差し支えなければお願いたします。

本多指導室長 実は、先日こうとう学びフォーラムを開催させていただきまして、多くの方々に参加していただきました。そちらで速報値ということでスタンダード定着度調査の結果を報告させていただきました。その速報値に差し替えようと思っております。

前回した調査とは、多少問題の質が違うところがありますので、今回の結果とは直接的には比較はできないというふうに思っております。

逆に言いますと、今後継続的にしていく調査は、今年度した調査がベースになっていきますので、今回の結果を入れる形にさせていただこうと思っております。

多少数値的には低くなっているところはありますが、スタンダードにかかわる定着度としては、良好な結果が出ているととらえられております。

小川委員長 ありがとうございます。

本多指導室長 1点よろしいでしょうか。我々のほうで御提案をさせていただいた案でございますが、21ページのところですが、先ほど庶務課長から説明をさせていただいたオリンピック・パラリンピック教育の②、③のところですが、今回東京都から出たものでたたき台とさせていただいているのですが、より江東区らしさを入れていきたいというふうに感じておりまして、そこのところについて、多少文言修正をさせていただき、江東区の取り組みがわかるような形の文章に差し替えたいというふうに思っております。もし御了承をいただければ、そういった形で修正をさせていただいて、最終的に提示をさせていただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

小川委員長 それは当然のことで、皆さんいかがですか。よりよく変更していただくし、より江東区に根ざした中身になっていきますね。
ではよろしく願いいたします。
全体的にほかにございますでしょうか。

小野瀬委員 些末な問題かもしれないですけども、「こども」「こどもたち」「児童・生徒」というのは、かなり統一感のないようなところがあるのかなと、若干気になるのですけれども、ここはあまり考えていないのですか。

中村庶務課長 広い意味で「こども」と使ったり、学校教育を中心には「児童」「生徒」「園児」と使いわけなければならない。特にオリンピック・パラリンピックでは「こども」ということにしておりますが、教育分野でございまして、そのあたりしっかり統一的な表現で「児童」「生徒」「園児」については、調整をしてみたいと思います。

小川委員長 ありがとうございます。確か、江東区は平仮名で「こども」ですね。
それでは、全体的になければ、進めたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。
それでは、本件につきましては、ほかにも御意見がなければ、これで終了いたします。ありがとうございます。
次に、「2 その他」に入っていきますが、庶務課長、何かございませうか。お願いいたします。

中村庶務課長 その他でございまして、机上に配付いたしました「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針の策定について（概要）の資料がございまして、これにつきましては東京オリンピック・パラリンピック教

育を考える有識者会議の委員でもあります岩佐教育長から、簡単に御説明をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

小川委員長 はい、お願いいたします。

岩佐教育長 私から少し説明をさせていただきます。オリンピック・パラリンピックの有識者会議の最終の方針が出ましたのは12月であります。それを受けて、都の教育庁で、東京都全体でこういう方針でオリンピック・パラリンピック教育を進めるという形で出てきたものであり、中身については有識者会議の中身と全く同じ方向性を持ったものです。

4月1日から東京都内の全学校・園が、こういう方向でオリンピック・パラリンピック教育を実施していくということで、8のところを見ていただくと、そこに最初の丸のところ「年間35時間程度を目安として」ということで、1年間おおむね35時間程度でオリンピック・パラリンピック教育にかかわるような内容の教育課程を組んでいこうではないかという方向になっています。

本区においても、既に校長先生方と準備会というような形で、意見を交換するような場を持っておりますけれども、今後本区のまさにオリンピック9競技、それからパラリンピック7競技を会場として持つ恵まれた環境を最大限生かして、しかも学校教育は教育課程の上で1時間1分でも大事にしなければいけないという状況の中で、学校は取り組んでいるところですので、35時間を上手に使って進めていかなければいけない。プランについては、また校長先生、園長先生、皆さんの御意見をいただきながら組んでいく予定であります。

発想として、オリンピック・パラリンピック教育の目標、意義だとか育成すべき人間像のところを読んでいただくとわかるかと思いますが、実は今御議論をいただいた教育推進プラン・江東あるいはビジョンにかかわることと、方向性が同じ方向を向いている内容だと理解しています。

したがって、全く新しいオリンピック・パラリンピック教育を進めるのではなくて、江東区がこれまで進めてきた取り組みをベースにして、しかも一番恵まれた環境を生かしていく方向に進めていけばいいのだということを検討しながら進めていくという形になるかと思います。

したがって、4月1日から始まるということですがけれども、4月1日からは準備段階ということで、なめらかに全校でスタートするような形を取って、8月にリオデジャネイロのオリンピックが終わったところから、本格的なスタートになると思います。そういうところで順次、まさに今回の教育推進プラン・江東の中で、私たちというのはこどもにかかわる全ての人という、改めて定義をしたわけで、とりわけオリンピック・パラリンピック教育についても、同じように学校、保護者、地域、区民、全ての方がうまくかかわっていただけるような形で、江東区独自

のオリンピック・パラリンピック教育をつくっていききたいなというふう
に思っているところです。

あと内容については、少し目を通して読んでいただければと思います
ので、よろしく願いいたします。

小川委員長 はい、御説明ありがとうございました。

本多指導室長 では、オリンピック・パラリンピック教育のことについて、少し私の
ほうからつけ加えさせていただきます。

今、教育長からありましたように、東京都がこのような方針を示して
まいりました。本区といたしましては、小学校、中学校、幼稚園、園長
先生方、校長先生方とも連携を図りながら進めていこうというふう
に考えているところです。

現状、江東区の中では、オリンピック・パラリンピック教育準備会と
いうものを設置いたしまして、校長先生方と今後のことについて少し
ずつ取り組みを進めているところであります。

既に、本区におきましては23校園がオリンピック・パラリンピック
教育推進校として、取り組みを進めているところであります。その取組
各校・園に示していきながら、徐々に進めていこうというふう
に考えております。特に、先ほどもお話がありましたように、リオデ
ジャネイロオリンピック・パラリンピックが一つの契機になる
だろうというふうに考えております。

先ほどのこうとう学びスタンダード定着度調査の話がありました
けれども、実は、その中のアンケートで、江東区独自に「東京
オリンピック・パラリンピックが楽しみですか」というような
調査もしております。その中では、70%以上、学年によって
80%以上の子どもたちが「楽しみ」と答えてお
りまして、そういった機会を我々は上手に使って
いかなければいけないと考えております。

あと4年しかないという考え方もありますし、4年あるという
考え方もあります。どちらにいたしましても、我々が考
えているのは、子どもたちにとってとてもいい機会に
して、いいものを子どもたちの心に残して
いきたいと思っておりますので、あまり焦って
やり過ぎずに、逆に子どもたちがオリンピック
嫌いになってしまうと困りますので、そう
いったところはうまく考えながら取り組んで
いきたいというふうに考えている
ところでございます。

35時間程度というものも、程度というところ
もありますし、子どもたちにいいものが
身につかなければいけませんので、
そういった部分については、質を考
えていきながら、各学校と連携を
図りながら進めていきたいという
ふうに考えております。

先ほどありましたように、江東区は恵
まれた環境でオリンピック・パ

ラリンピックを迎えることができますので、それをうまく活用していきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

小川委員長 はい、ありがとうございます。

考えてみれば、オリンピックのために学校、幼稚園、保育園はどうするかといった論法ではなくして、江東区のこどもは、たくましく健やかに育っているこどもたちが、オリンピックを契機にもっと膨らんでいくのだといった考え方が、我々の共通した考え方です。したがって、オリンピックのために何かをすとかではなくして、こどもがあって、学校がある。こどもがあってオリンピックがあるのだろうなといった印象を今受けました。

それでは、ありがとうございます。

以上をもちまして、本日の案件は終了いたしました。後半戦はご感想いただきますが、言い足りないことはございませんか。

では、以上をもちまして、本日の案件は終了いたします。

なお、本日御審議をいただきました計画案は、今後、皆さんの御意見を踏まえながら、最終調整をさせていただきたいと思っております。調整につきましては、私と小野瀬副委員長に御一任いただくということでよろしいでしょうか。

委員 (異議なし)

小川委員長 ありがとうございます。では、私どもで責任を持って調整をさせていただきます。

では、最後の後半戦になってくるわけでありましてけれども、6回にわたって江東区の教育の策定委員として計画に加わっていただき、いろいろな議論をしていただきました。ある意味では、こういう場で学校、幼稚園、保育園の立場もわかってきたし、保護者の方のお考えもわかったし、地域でこどもを支えている方たちの思いというか、問題点などもわかったのではなかろうかなと思っておりますが、お一人ずつこちらから回ることになっています。簡単でいいですので、御感想をお述べいただければと思います。よろしく願いいたします。

織茂委員 6回にわたっていろいろ協議をさせていただきまして、不出来ながら私も意見をさせてもらったりしましたけれども、私の住む亀戸もそうなのですけれども、江東区は人口が増加傾向にあるということで、私の周りも他地区から来られる方も多いですし、それこそ外国籍の方も大分ふえています。環境も変わってきていますし、片親の御家庭もふえています。そういう中で、どうやって教育環境を整えていくかと、非常に難しいと

ころに来ていると思うんです。

それだけ江東区は柔軟に対応しなければいけないところに来ているのかなというふうに感じています。

ありがたいことにオリンピックという、人生で一度経験できるかできないかというところもありますので、めったにない機会をいい形で、人生経験として、私だけではないですけども、今、おいでの方々が同じ方向を向ければいいのではないかと考えております。

小川委員長 ありがとうございます。では、原委員お願いいたします。

原委員 ありがとうございます。6回活動させていただきまして、私がPTAをやっていなかったら、この場にいなかったのも、そういった意味では、江東区がどう考えて取り組みをしているのかという部分がよくわかりましたので、非常に勉強になりました。

やはり、一番思うのは、すごい立派なものがあったと思うんですけども、これをどう浸透させていくかというところが一番難しいところで、やはりPTAも不要だと思う人は少ないと思うんですけども、できればやりたくないという方が非常に多いものですから、逆にお願いとしては、流入して来た方には、お子さんがいる場合には、必ずやってくださいねと、強制的に言ってもらいたいぐらい、みんなの協力があって成り立っていくものだと思うんです。下町だからこそ、周りの顔がよく見えて、みんなで協力していくという、本当の粋な部分が出てくればいいのかなど。ただ、やはり、自分だけよければいいという考えがある。例えば、ごみ捨てでも、ごみ捨ての清掃してくれる人がいるから、適当に出しておけばいいという人とか、自分の子どもには絶対そういうふうには言わないだろうけれども、自分ではやったりということがすごい多いと思うので、やはり学校の先生は大変だなと、いつも思っていて、その辺をもう少し人任せではなく、主体性を持って取り組むというところが、逆にこれがうまくいくかどうかのポイントなのかなと。せっかくいいものを、このままいい部分だけが残りますではなくて、これが運用されて、このとおりにいくのを期待しております。

小川委員長 はい、ありがとうございます。では、彦田委員お願いいたします。

彦田委員 皆様、1年間どうもありがとうございました。策定委員会という、大変な会議にお招きいただいて、本当に勉強になりましたし、保護者といたしましても、多くの方が子どもたちや教育のために日々御尽力くださっていることを感じて、とてもありがたく思い、江東区がもっと好きになりました。

原委員もおっしゃっていたのですけれども、これを策定して、また始

まっていることがあると思うんですけども、保護者として何ができるかということを目々考える機会にもなりましたし、一保護者として陰ながら教育に関して協力できればなと思います。

どうもありがとうございました。

小川委員長 では藤田委員、お願いいたします。

藤田委員 1年間、本当にありがとうございました。小学校の校長会として、この会に参加させていただいて、校長会でもこの中身を見ていただいて、意見を吸い上げて、この場でも取り入れていただけることがたくさんあって、私としても本当に28年から5年間かけるこどもの教育について、こんなに真剣に皆さんと話し合えたことが、本当にためになったと思います。

また、職責の重要性を感じながら見ているのですけれども、東京の中でも、特にだれもがチャレンジできる社会をつくり、世界に羽ばたく人材を輩出するというのが出ていて、それを受けて江東区も、本当に皆さんが一生懸命やってくださっていることを感じながら教育に携わっています。オリンピックという本当にいい機会を、江東区は、今、一番伸びるチャンスがあるというところで、私たちはこの中身を、どうやったら学校現場で子どもたちの教育を、保護者、地域の皆様と一緒にできるか、世界に羽ばたけるこどもを育てていけるかについて、見直すチャンスができて、本当にありがたいなと思っています。ぜひ、これを生かしてやっていきたいと思っています。

中身については、私が最初に見た中身から、だんだんと区民の人たちが余り専門書のように難しいなと思うより、本当に工夫していただいて見やすくなったことで、本当にこれは生かされていくきっかけになると思いますので、ぜひこれからも学校現場で頑張ってやっていきたいと思っています。ありがとうございました。

小川委員長 ありがとうございました。では山本委員、お願いいたします。

山本委員 この場に参加させていただいて、いろいろな御意見を聞くことができ、非常に勉強になりました。

私には力不足もあって、なかなか十分な意見が言えなかったところもございますけれども、これからここでの話し合いを中学校のほうに広げていければと思っています。

今、何人かの方も言っていましたが、こういった理念やこういう施策を、学校の中でどのように実現していくのかということが一番大事だと、私自身痛感します。

全部同じようなことを各学校が、もちろん一定レベルのことはしなけ

ればいけないわけですが、学校によって、地域によって、こどもの実態によってさまざま特色もあります。それから、ある意味、その学校の強みのようなところもありますので、そういったものを生かしながら、うちの学校はこれを重点に行っていくこともあり得ると考えています。それぞれの学校がよりいい形で、こういったプランに基づいて教育充実ができるようにしていければと思っています。

それから、今、私がよく子どもたちに、「みんなはオリンピック世代なのだよ」と、口を酸っぱくよく言うのです。子どもたちといろいろ話す中で、先ほど指導室長のほうからも話がありましたが、すごく関心・意欲を持っています。本校の生徒ですけれども、そういったボランティアに参加している子どもも何人かいて、オリンピックのジュニアにかかわる子どもに、参加していて、次のオリンピック、また次のオリンピックを目指して頑張っている子どもたちも、数は多くはありませんが徐々にふえてきているということを実感しています。

その中で、やはり子どもたちの意見として、江東区は大好きだという言葉感想として聞かれるので、やはりそういったものが子どもたちに伝わっているということを感じています。

改めて私自身、こういった話し合いを通じて、もちろん時代は変わっていくのですけれども、やはり子どもは親の背を見て育つ。子どもは大人の鏡であるということ、みずからの実戦を通して、子どもたちに伝えていければと思いました。本当にありがとうございました。

小川委員長 では中田委員、お願いいたします。

仲田委員 1年間、6回参加させていただきまして、ありがとうございました。いろいろ意見を言わせていただいて、江東区の中で、教育は0歳から15歳までの教育を一貫してということで、いろいろな御意見を聞かせていただいたり、この推進プランの策定と一緒に参加させていただいて、自分自身もとても勉強になりましたし、現場で私自身園長としてもですし、教員に対してもですし、また幼稚園は特に保護者も身近ですので、ぜひこれを保護者の方にも、この内容を伝えていければと思っています。

オリンピックに関して、私が2020年まで生きていけば、実際3回目。自分が小学校のときに1回東京オリンピック、幸せなことに私は札幌オリンピックのときに札幌にいたものですから、中学校のときにオリンピックを直接見に行かせてもらった経験もあり、そして今度ということ。やはり、直接見るとか直接感じるというのは、本当にいい記憶しか残らない。ちょうど札幌のときはスケート場にサインが残っているとか、そういうものを間近に経験したので、本当に子どもたちに、もちろん園児もそうですし、江東区内だけではなく全世界の子どもたちに、オリンピックは素晴らしいということを伝えていければと思いますし、

夢もいっぱいですし、私自身もいろいろ見てきて、選手たちに憧れた時代もありましたので、そういうものはとても生きていく力であったり、心の育ちに貢献すると思うので、先ほど委員長がおっしゃったように、こどものため、こどもがということで考えて進めていければと思って、微力ながら自分も頑張っていければと思っております。

本当に1年間、ありがとうございました。

小川委員長 ありがとうございました。2020年まで生き続けましょう。
杉田委員、お願いいたします。

杉田委員 本当にありがとうございました。最初にこのお話をいただいたときに、こういう会議というのは教育に携わる人たちばかりの会議だと思っていましたから、私のような地域のじじいが出ていっても役に立たないのではないかと思ったのです。しかし、いろいろお話を聞いてみますと、今の子どもたちが、私が考える縦のつながりがないということが、非常に気になっているのですね。横のつながり、同級生が多い。せいぜい縦のつながりですと、集団登校で班長さんの6年生が連れていくというぐらいで、子どもたちが自主的に縦のつながりで遊ぶということが、まず二、三十年ないということです。古いことを言ってしまうけれども、私たちの頃はがき大将がいて、それこそ赤ちゃんをおんぶしたこどもまで面倒を見て、最終的には責任を持ってがき大将が連れて帰るといったような構図があったのですけれども、今はそういうものが一切ない。地域のほうで江商連ですとか、地区体でやる行事、課外行事、校外行事というのか、それで集まって、6年生から4年生までとか、そういったことで多少縦のつながりができているのかと思っているのです。何とか縦のつながりを復活できないものかと、地域の間人としては、そう思います。

というのは、私のがき大将だったものですから、がき大将というのはものすごく責任感が強いのです。小さいこどもが交通事故に遭わないようにとか、そういうことを一生懸命考えて、こどもなりにやっていたものです。

それから、オリンピックの話ですけれども、前のオリンピックのときはいきなりだったんです。来年オリンピックだよと、このぐらいだったのです。あちこちを掘り返したりしていましたが、こんなに4年も5年も前から準備するというか、子どもたちにも周知徹底するというか、こういうことはなかったもので、今のこどもは幸せだと思っています。

私も前回行ったのですけれども、感激して帰ってきた覚えがあります。じじいのたわ言と思って聞いていただければと思って、いろいろ発言をさせていただきました。

1年間、ありがとうございました。

小川委員長 ありがとうございます。小原委員、お願いいたします。

小原委員 まず、皆さんこういう機会を与えていただいて、ありがとうございます。私自身もとても勉強になりました。

私は青少年委員会を代表してということでお話をいただいて、こういう教育の推進プランの策定にかかわることは、今まで経験がなかったので、教育現場はこういうふうになっているのだということを改めて知りましたし、江東区のこどもたちはこんなに一生懸命考えてくださる方がいっぱいいるのだということを、改めて思いました。

私ども青少年委員会は、各小学校から選出されておりますので、小学校の校長先生方とはいつも学校のことに关してはよく承知しているのですが、区レベルになると、やはりいろいろなことがあるのだろうと思っておりますので、これからも学校とも連携し、そして青少年委員会は小学校・中学校のPTA連合会とも協力をして、さらに江小連、江東区青少年団体連絡協議会、こども会とも連絡協議しています。今江小連さんとはジュニアリーダーの育成ということで成り立っていますが、先日もジュニアリーダーの講習会の閉校式がありまして、その中でオリンピックにぜひボランティアで参加したいというこどもたちがたくさんいました。そういったこどもの活躍場所も今後詰めていけたらいいと感じております。

また、中学校の生徒会の生徒会長たちとの交流も、青少年委員会は持つことができている、3年ぐらい前には、オリンピックでは私たちにできるおもてなしをと考えてもらったり、ことし開かれた交流会では、スマホのルールを自分たちでつくろうということにもお手伝いをさせていただきました。

江東区のこどもたちは、とても前向きなこどもが多いなど常に感じておりますので、こういう素晴らしい教育プランの中で上手に育てていきたいと、改めて思いました。

ありがとうございます。以上です。

小川委員長 ありがとうございます。では朝香委員、お願いいたします。

朝香委員 1年間、どうもありがとうございました。

私はスポーツ推進委員会というところで、体育関係の中の代表として出させていただきました。

一番最初に私が考えたのは、15歳の春を笑顔で迎えらるようという大きな柱に向かって考えていけばいいということを常に考えて、発言というか、本当にオリンピックに対しては情報もなかったので、本当に御迷惑をかけました。

私は、1964年の東京オリンピックのときは中学3年生でした。そのときには各学校から2名が選ばれて、聖火リレーのトーチではないんですけども、私たちは旗を持って8000メートルぐらい走った経験があります。きちんと走れとか、先生に怒られて大変だったんですけども、すごく自信にもなりました。

私はバスケットをやっていたので、東京オリンピックのバスケットを観に行く券を買いに行ったんですけども、買えなかったので陸上競技を買いました。陸上もすこしかじっていたので、陸上もいいなということで陸上に入って、大学までやらせていただきました。出会いではないですけども、チャンスなのです。今の生徒や児童がオリンピックにチャンスをもたらしたと思って、そこで羽ばたけるような教育を先生方のほうに。私は先生に仕向けられたような感じで、そういうところに走ったんですけども、そういうような感じで、先生方も考えていただければ、本当に15歳の春が笑顔で迎えられる江東区のこどもたちになると思いますので、私たちも微力ながら、それに向かって協力していきたいと思っています。

小川委員長 ありがとうございます。では小田委員、お願いいたします。

小田委員 区民代表の小田でございます。1年間、ありがとうございました。

印象に残っているのは、パブリックコメントの中ですけども、私は子育てを終わっている世代ですが、今まさに子育てをされている方の意見を代弁していかなければいけなかったことがありました。そこは気がつかなかった面だったのですが、ただこの中で議論されたものを、教育委員会という名前はもちろん知っていたのですが、これだけのスタッフの方がいらして、まとめ上げるという作業、多分徹夜されることをあつたと思うんですが、やられるということが感心させられた思いがしました。

それと、民間人として、どうしてもオリンピック・パラリンピックということになりますと、区長がこれだけ大々的に声を上げてやっているということは、普通の会社でしたら、これも発言したと思うんですが、お金がつけば人もつく。例えば、先ほど原委員がおっしゃったように、せっかくいいものができたのだから、これをどうやって普遍化していくか、浸透させるかというときに、これは教育委員会の仕事ではないと思います。全庁的なプロジェクトとして、やはりICT教育の奨励とか、積極的にやりましょうというところ。あるいは外国語教育を動かしましょうとかという中で、具体的な案件としてほかの省庁の、またほかの部署の方の協力を得ながら、事業化して進めていきたいなという思いがありました。

最後に一つ、私は前回の1964年のオリンピックのときは、数矢小

学校の5年生で聖火ランナーを見に、今引っ越してしまった深川警察署の前のところに社会科見学の一環として行ったことを覚えています。

今度2020年どういう形で迎えるかわかりませんが、21ページにあります、先ほど本多指導室長が説明されたけれども、表の中で「大会の成功・こどもたちの成長」という中で、「国際理解、外国の人との交流」という一つのテーマがあります。

実は、私はベルギー大使館と個人的な交流がございまして、日本とベルギーが外交関係を樹立して、ことしで150周年になります。日本では、天皇陛下が名誉総裁としてご就任されました。ベルギー側はフィリップ国王陛下が名誉総裁として就任され、国家プロジェクトということで外務省も全面的な応援をしております。

ベルギーと日本の何か交流の役に立てる機会がないかなと。別にこれは営業ではないですけれども、せつかくこれだけの成果物ができて、単に区民の代表として名前が載って御苦労さまでではなくて、何か具現化したものにしたいなという、そういった形で貢献していきたいなという考えを持っています。

小川委員長 ありがとうございます。原田委員からお願いします。

原田委員 1年間、どうもありがとうございました。

いろいろな分野の方のお話を伺えて、とても私が思いつかなかった視点の問題をたくさん教えていただいたように思います。同時に、まだ保育園や幼稚園の違いであったり、連携であったり、まだまだ続く新しい問題もあるのだなということを随分把握することができました。

今、こどもが高校1年と中学校1年と2人いるのですけれども、前期の施策の恩恵を十分にいただいたこどもたちです。これを教えていただいているときは、やはりこういうことがあって教えていただいていることは、実感としては、一保護者としてはなかったのです。やはり、前期のときも、同じようにたくさんの方々が携わって、こどもをよくしようというものがあってこそその教育であって、そういう恩恵を受けられたのだと、本当に感謝いたしました。

ただ、後期でとてもいいものができて、本当にこれが全部推進されれば、とてもいいこどもたちが育つと思うんですけれども、これを保護者に浸透させるというのは、至難の業だと思います。去年までPTA会長を5年務めておりましたけれども、織茂さんも、原さんにも悪いと思いますが、この文章を保護者の方に読んでいただくだけでも、非常な時間と労力が必要です。私もPTA会長でしたから、前期のものを見ていましたけれども、一般の保護者の方に浸透させるというのは、結構無茶な話だと思います。

ただ、いつも申し上げていましたけれども、学校と保護者、先生と保

護者は同じ方向を、車の両輪のように一緒に回っていくものであって、学校だけが空回りしてもだめですし、保護者だけが回っていても、こどもは真っ直ぐ進まないということをよく申し上げました。ですから、どういう方向を向いて育てたいのかということ、先生とよく話し合ってくださいということをよくお話ししてきたのです。その中で実践されていく中で、こうとう学びスタンダードでも先生からお話があり、こういうふうに行くのだなということを理解していくことで、方向が見えてくる部分がありました。実際に進めていく中で、保護者にはだんだん浸透していくという感じがいたします。また、これをかみ砕いて、先生方が教えていただけてもお忙しいのでなかなか大変だと思いますけれども、これが実施されることが順調に進んで、絵に描いた餅ではなくて、実施されると本当に素晴らしいと思います。

先ほどから、皆さん自分のオリンピックの思い出をお話しされてきましたけれども、私には余りオリンピックの思い出は、長野で応援に行ったぐらいです。国体のほうは、18年前に広島県でありました国体に、国体といっても障害者スポーツの仕事をしていましたので、障害者スポーツの国体です。もちろん国体の後に大会があるわけです。それをスタッフとして選手と一緒に広島県代表団と一緒に行ってたのですけれども、競技が終わりますと、最後の日に打ち上げというか、閉会式の後にいろいろあるのです。そのときに、どこの県の障害者の方も、スタッフの方もみんな一緒くたになって、ねぶたの踊りをいろいろな障害の方がいるのですけれども、全員で踊って涙を流したという経験がいまだにとっても忘れられず、パラリンピックの障害をやりたいというのも、同じ人間なのだということ、同じ時間を過ごしていただくことで、こどもたちにもわかってくれればいいなと思います。

本当に1年間、ありがとうございました。

小川委員長 ありがとうございました。赤石委員、お願いいたします。

赤石委員 よろしく申し上げます。オリンピックは確か小学校2年だったと思います。アベベが裸足で走っていた記憶が非常に残っています。

毎回、意見をレポートで書くということが、時間に追われて大変な作業だったというのが一番の感想です。多分、皆さん方の意見を聞きながら、そういう視点もあったのだなというふうに読まさせていただいて、視野が広がりました。

教育課題や教育ビジョン、しきりにイメージを1回目、2回目に話されていて、今、この案を見てイメージが固まった。そういう実感をしています。

教育ビジョンのところで、最初の素案のときには、江東区の教育が目指すべき方向性という文言が、修正案のところで区民・保護者、我々と

いうことを具体的に書かれて、より具体的に広がってきたなというイメージが膨らんできて、さらに案のところでは、教育の使命のところでは、冒頭御説明があったように育てますと。こちら側からこどもたちを育てるという表現から、こどもたちが身につける力ということで統一されてきている。教育に携わる我々がどうするのかというあるべき姿が、こどもたちがどうなっていくのか、そういうイメージに集約されてきたのだなと、全体の回を俯瞰してみると感じます。そこが、最後のところで「つながる心」と、委員長さんがお話しされたように集約しているのかな。先ほど、地域の方から、縦のつながりが少なくなってきた。そういう言い方をされていた部分が、すごく大事なのだろうと。特に、江東区の場合には歴史もあって、地域性もあるということで。

学校の場合には、よく連携という言葉を使うのですが、連携ではなくて、つながりとか接続とか、もっとこどもを主体に、こどもがどう幼小中高とつながっていくのか。それを地域が、区民がどう支えていくのかあるいは教育していくのか、そういったことが教育ビジョンの中に反映されているのではないかと、素案、修正案、案というふうに改訂される流れを見て、非常に感じました。

今度は、具体的に実現をしていくのは主に学校が大きな担い手になるかと思うので、その重責をひしひしと感じているところです。

区内には都立高校8校ありますけれども、地域に根ざした高校を、全ての高校が学校経営計画の中に入れていきますので、そういった教育ビジョンに基づいて、地域とどうつながっていくのか。そういう視点で今後活動を強めていかなければいけないと強く思った次第です。

小川委員長 ありがとうございます。一番最後に、教育長の岩佐委員からお言葉をいただくのですが、江東区の教育のあるべき姿の主語が、「私たちには」という言葉から始まっているわけですが、これが「私たちは」なのです、本当は。だから、こういう会があることが大事ですし、お互いに心の中を割ながら話ができるようにしたこの会を設定していただいたこと、大事だったなと思って、いよいよ教育長の出番です。お願いいたします。

岩佐教育長 6回にわたって、それぞれのお立場から本当に有益な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

ステップを踏んで、だんだん形に仕上がって、きょうこういう形にさせていただき、本当にうれしく思っております。

ことしの4月1日から新しい教育推進プラン・江東（後期）に基づいて、この取り組みが始まるわけですが、実は1月、今の時期は後期に向けた移行期の時期にありまして、先ほど少し話が出ていましたけれども、この前、そこの文化センターで学びフォーラムを開催いたしま

した。小川先生にはコーディネーター役で出いただきましたけれども、学びフォーラムのテーマは「江東区の英語教育」ということで進めました。英語教育の中心になっているこうとう学びスタンダードの英語スタンダードの策定に際しては、2020年のオリンピック・パラリンピックの恵まれた江東区環境を、子どもたちの英語教育にどう生かしているかという視点で、みんなで協力しあいながらつくったスタンダードであります。そのスタンダードに基づいて、有明小学校の子どもたちがこちらに来てくれて、その授業を公開してくれました。ALTの先生とのティーム・ティーチングの授業だったんですかね。とてもいい授業を提供していただいて、中学校のほうは、ちょうど3年生が今年度の夏休みの短期留学でカナダに行ってきたのですけれども、その子どもたちがその経験を英語のスピーチにしてくれました。披露をしてくれたのですけれども、これもとてもいいスピーチでした。

英語についてだけではないのですけれども、実は今ここにいらっしゃる小学校の会長さん、それから中学校の会長さん、幼稚園の会長さん、3人いらしていますけれども、保育それから授業をどんどんよくしているという取り組みが、今進んでいるところであります。何といたっても、子どもたちが学校・園の中で一番多く過ごしているのは、保育の時間であり、授業の時間であるわけです。やはり、いい授業をつくっていくということを骨にしなから、教育推進プラン・江東（後期）もしっかりやっていかなければいけないというふうに思っています。

そういった意味で、これまでの授業改善の取り組み、チーム江東でやっている取り組みが継続する中で、もっと江東区の教育がよくなるように、まさに子どもにかかわる全ての人を取り組めるように、教育委員会としても力を尽くしていきたいと思っていますので、この機会を縁に、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

本当にありがとうございました。

小川委員長 それでは、小野瀬副委員長、余り発言する機会がなかったのですが、二言、三言、四言、お願いいたします。

小野瀬副委員長 皆様、御苦労さまでした。

自分について言わせていただくと、本当に小川先生の隣に座らせていただいているだけで、余り何もできなかったのですけれども、今回参加させていただいて、本当にいろいろな立場の違う人が集まって意見を言い合うというのが、とても勉強になりました。

私は江東区に住んでいませんが、授業支援チームでかかわらせていただいたりする中で、話がそれますけれども、今、八丈島の小中連携の事業にかわっていたり、来週は神奈川県三浦半島の先のほうに剣先小学校がありますけれども、1クラス10人ぐらいの小さい学校です。どちら

かという、少人数の小さいところの学校と少しかかわる機会がありまして、江東区はどちらかというところすごく大規模に膨らんできているところで、それぞれがいろいろな問題を抱えながらやっていることはすごくわかります。江東区の場合、舵取りを間違えると難しい方向に行ってしまう要素がいっぱいあるのだろうという中で、授業支援でいろいろな小学校、中学校を見せていただいていますと、非常にうまく回っているのかなと。行政のサポートとか後押しがあると思いますけれども、そういったところがすごくうまく回っているのかなというような感想をもちました。その辺が、江東区はうらやましいなど、周りから見ていると思われるようなところだったと思います。

あと、最後何でも言っているよと、小川先生に言われたので。

私は毎年大体1月ごろになって、成人式の映像を見ていていつも思うんですけど、例えばきょうの資料のはじめのところでも、「こどもは0歳から15歳までのこどもたちが」と書いてありますけれども、どうもそこから20歳にいくところまでがうまく機能していないのかなという気持ちがあって、今度選挙権が18歳になるので、高校の卒業と同時に大人になる。行政は20歳までかかわらなくていいのではないかなと思っているんですけど、だんだん学齢が上がってくると、こどもたちもいろいろ方向に行くので、まとまって何かというのは難しいと思うんですけど、これに少し携わらせていただいて、いいところと、こういうところは案外光が当たっていないのかなというのが見えたり、自分でもすごく勉強になりました。ありがとうございました。

小川委員長 ありがとうございました。

では、私のほうから時間も限られていますので、三つだけお話ししたいと思います。

6回目の委員会に御参加ありがとうございました。いろいろなことがわかりましたし、いろいろなことが心がつながったのだろうと、私は思っています。

1つ目に申し上げたいのは、プランが具体的にこどもの姿になって、結果としてあらわれているのだなという実感を持っています。例えば、教育長が話をしました英語のスタンダードなら、小学校5年生のこどもが英語で区民ホールの舞台上で、模擬授業という言葉が業界では使うのですけれども、こどもたちが自己紹介をする。歌を歌う。自分の将来像をしゃべるとい、どのこどももしゃべれるのです。そのこどもたちが、あなたが昔なりたかった職業とか夢は何でしたかという流れがあって、最後に舞台からこどもたちが下りてきて、僕らに聞きに来るのです。

何が言いたいかというと、いろいろな教育委員会あるいはこういう会議でつくったプランが、英語スタンダードやいろいろなことがあるのだけれども、こどもの姿になって結果が出ているというのは、すごくうれ

しいことだと。やはり、こどものために僕らはやっているわけですし、それが1つ目の印象であります。

2つ目は、きょうは1月28日ですか、きょうの日は6回の会議が終了するわけですが、新たに再出発をする日だと思います。つくったプランが、私たちが力を合わせて実現していく。それもこどものための実現というふうに、新たな意味での再出発の日ではなかろうかと思っております。

最後になりますが、事務局の方々、多分寝ずの番であったり、あるいは平常業務がある中で、こういった大きな業務をしなければならなかったことは、多分大変だったのだと思うのです。小野瀬副委員長の話もあるように、行政の支援があればこそ、素敵なこどもができあがってくるというのが、私たちの夢であり希望であります。そういう意味では、私たちのほうが向こうに向かって、ありがたいで拍手をしたいのですが、よろしゅうございますか。

では盛大にありがとうございます。

(拍手)

小川委員長 それでは、終わりますが、一番最後です。

最後に参考をごらんください。みんなで考えた教育プランが、こういうふうに花が咲くようにみんなで祈って、この会を終わりにしたいと思います。ありがとうございます。

では、事務局より御連絡があればお願いいたします。

中村庶務課長 皆さん、きょうはありがとうございました。

最後に、事務局から今後の予定についてお知らせいたします。

今後でございますが、きょう計画プランを御審議いただきまして、この結果に基づきまして、2月の教育委員会で協議の上、プランを策定することになってございます。3月には区議会の文教委員会に報告をしまして、その後、印刷、製本をして委員の皆さんにもお配りしていくということになってございます。印刷段階で文字もさらに見やすいようにする予定でございます。

先ほど、保護者の方にどのようにこれから周知していくのかということがございました。私どもも、当然学校にはお配りいたしますが、できるだけ教育ビジョンのシンプルなところは、例えばリーフレットのような形にして、ぱっと見たイメージがわかるような形にできればと思っております。

また、以前もお話ししましたが、英語訳とか中国語訳のような簡単なものをつくって、外国の方もふえましたので、オリンピック・パラリンピックに向けても、江東区の教育ビジョンの今後の方向性をつくという形で周知をさらに図っていきたいと考えております。

最後になりましたが、本当にお忙しい中、長期間にわたりまして御出席いただきましてありがとうございます。事務局も拍手をしていただきましたが、本当に皆さんの御協力があったので、ようやく案がまとまったということでございます。本当に御協力ありがとうございました。

小川委員長　では、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

— 了 —